

短期集中C型のツボ



みんなで考えよう well-being ⑥

ともひろ
TRAPE 代表 CWD / 作業療法士 鎌田大啓

ICFは対話を価値あるものに変えるツール



複数のチームメンバーとの対話も力強い活動です。

対話を整理・解釈することの大切さ

本人主体の短期集中サービスの特徴は、専門職と利用者本人が対話を重ねるといふことでした。ここで押さえておきたいことは、対話を行うことは手段であり、目的ではなく「well-being」です。

well-beingな日常を取り戻すという本人の目的を達成するためには、さまざまな情報（材料）が必要となります。対話は

しかし情報を手に入れるだけでは目的は達成できません。得た情報は

ICFも使える情報にしよう

「対話を整理・解釈しておく」とは、実際どうやるの？という声も多く聞かれます。その悩みを解決してくれる最高のツールがICF（国際生活機能分類）です。

しかし、ICFについて「なかなか難しく」「現場でどう使う

多職種の連携やチームケアの場面でも共通言語としてその威力を発揮します。対話を軸にした短期集中サービスに必要なリエイアルメント（再び自分でできるようにする）の要素とマッチングしているわけですから、使わない手はありません。

難しく考えずに、まずは①本人と対話した内容を簡潔書きで書き出す②その内容を「心身に関すること」「活動や参加に関すること」「その方の外側の環境に関すること」「その方の性格などに関すること」に分けて整理する③分けた内容の二つ一つ一つについて「強み」と捉えられるのか、現場でいう課題なのかについて分けることで解釈をする—という3つの手順を踏むのです。

②、③はできるだけ複数のチームメンバーで対話しながら行うことがオススメです。そうすることで本人のことをチームで立体的に共有することになります。また、このような土台づくりが本人のセルフマネジメント力をチームで引き出すこととなりwell-beingな日常を取り戻すという、

その情報集めのためにも重要な活動です。対話を通して、主役である本人の想い、過去・現在・未来のストーリー、日々の活動状況や社会とのつながり、身体機能のこと、本人を取り巻くさまざまな環境、本人らしきものの様々な情報を得ることができます。

ICFは専門職を繋ぐ共通言語

「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

重要です。多職種の連携やチームケアの場面でも共通言語としてその威力を発揮します。対話を軸にした短期集中サービスに必要なリエイアルメント（再び自分でできるようにする）の要素とマッチングしているわけですから、使わない手はありません。

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

【方針】2022年度は、市内の介護事業所の生産性向上のモデル事業や介護予防サービスの充実に取り組み、複数年をかけて山形市や山形県全域を視野に成果を上げる予定

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが

「ICFは、介護保険の軸である「自立支援」の目的である「ひとの生活の可能性を追求する」ための貴重な要素であり、ヒントを整理分類し、見える化できるフレームワークとなっています。ですから、実際にケアプラン作成、介護事業所の実施計画・サービス提供などにICFを取り入れることが



TRAPE 鎌田大啓代表（左）と山形市長・佐藤孝弘氏

本稿連載の鎌田氏が代表を務めるTRAPE（大阪市）は3月30日、山形市と「地方創生の推進に係る包括連携協定」を締結した。山形市が実施する市内介護事業者の生産性向上のモデル事業や介護予防サービスの充実を、大阪府豊屋川市の支援事例など数多くの介護業界の人材・組織開発に取り組み、複数年をかけて山形市や山形県全域を視野に成果を上げる予定

「介護発の地域創生を目指す」TRAPE、山形市と包括協定締結

地域創生の取り組み。地域共生社会の実現、魅力ある雇用環境の創出、スマートシティの推進を通じてwell-beingな地方創生を目指したい」と意気込む。【包括連携協定の内容】*健康の保持・増進に関すること *魅力ある雇用環境の創出に関すること *スマートシティの推進に関すること *その他地方創生の推進に資すること及び市民サービスの向上に関すること

本人の目的の達成をリアルに生み出しつづける。ICFの実践例はTRAPEのウェブサイト (https://trape.jp/icf-usecase/) へ。